

厚生労働科学研究（公募課題）

疾病・障害対策研究分野 障害者政策総合研究

【進捗状況報告】

将来的な社会参加の実現に向けた
補装具費支給のための研究（3年計画の2年目）

研究代表者：中村 隆

国立障害者リハビリテーションセンター研究所

本研究の目的

- 高機能の補装具を支給することにより、利用者の社会参加が促進され、社会全体として正の費用対効果があること、及びそれを実現するために必要な因子のエビデンスを明らかにすること。

- 高機能の補装具をどのような障害者が必要としているのか？
- 高機能補装具を何をもって使いこなしていると判断できるのか？
- 高機能補装具を使用することで、社会参加へ向けてどのような効果があるのか？

対象とする補装具：義肢（義手・義足）、装具、電動車椅子

本研究の仮説

- 高機能補装具を支給することにより利用者の就労と社会参加の機会が増え、納税者となることで社会全体として公費の還元となる、あるいは高機能義肢の使用により利用者が安全な生活を送ることが可能となり、非使用のリスクにより生じる医療・社会保障費の軽減に至るのではないか。
- 高機能補装具の支給により、高い技術レベルが要求されるフィールドが構築され、製品開発のみならず、医療・福祉におけるさまざまな技術が向上するのではないか。

研究計画

- 高機能補装具の支給状況および利用者の社会参加に関する調査
- 高機能補装具の適応条件と有効活用のための練習方法の明確化
- 高機能補装具の一時的な貸与による社会参加および就労支援の実証実験
- 一時的な貸与方法として借り受け制度を想定した社会参加・就労支援プロトコルの確立と訓練マニュアルの作成
- 海外における高機能補装具の使用状況に関する調査

R 7 年度進捗状況

- 高機能補装具の一時的な貸与による社会参加および就労支援の実証実験
 - ・ 義足（電子制御膝継手）：両大腿切断者1名、片側大腿切断者1名
 - ・ 義手（筋電電動義手）：前腕切断者1名、上腕切断者1名
 - ・ 装具（電子制御膝継手）：脊髄損傷者2名
 - ・ 電動車椅子（アシスト付き、リフト付き等）：4名
- 高機能な補装具の支給による費用対効果を明らかにする。
 - ・ 効果指標として就労状況とQOL調査（縦断的、横断的）を調査
- 高機能補装具の適応条件と有効活用のための練習方法の明確化
 - ・ 研究参加施設の療法士間の情報共有

今後の計画（R8年度）

- 高機能補装具の一時的な貸与による社会参加および就労支援の実証実験
- 一時的な貸与方法として借り受け制度を想定した社会参加・就労支援プロトコルの確立と訓練マニュアルの作成

目標（成果物）（案）

- 高機能補装具有効活用事例集
 - ・ こんな職業・環境には高機能補装具が必要。
 - ・ こんな人なら支給しても有効活用してくれる。
- 高機能補装具使いこなしマニュアル
 - ・ 高機能補装具に付随する新機能の使い方、練習の仕方
 - ・ メーカーも知らない使いこなし術
- 義肢装具ユーザーが働きやすい職場環境づくりの手引き（一般向け）
 - ・ 調子よい時は普通の人、でも適合悪いとパワーダウンしてしまう。
 - ・ 修理や判定で休み取らなくてははいけない・・・雇用側の理解を促進